



平成20年9月22日

各位

会社名 株式会社 ニックス
代表者名 代表取締役社長 青木伸一
(JASDAQ・コード4243)
問合せ先 取締役管理本部長 先本孝志
電話 045-221-2001

平成20年9月期の通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年9月期(平成19年10月1日～平成20年9月30日)の通期業績予想について、平成20年5月20日付当社「平成20年9月期中間決算短信」にて発表いたしました通期業績予想を以下のとおり修正いたします。

1. 平成20年9月期 通期業績予想の修正等

(1) 連結業績予想(平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	4,663	215	200	108
今回修正(B)	4,640	160	155	85
増減額(B-A)	23	55	45	23
増減率	0.5%	25.6%	22.5%	21.3%

(2) 単独業績予想(平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	4,483	192	157	82
今回修正(B)	4,410	105	100	40
増減額(B-A)	73	87	57	42
増減率	1.6%	45.3%	36.3%	51.2%

(3) 修正理由

売上高につきましては、従来からの当社主力製品である事務機器業界向けプラスチック・ファスナーが大手複写機メーカー中国現地工場向けを中心に好調に推移したことに加え、摺動性・耐久性に優れた軸受け部品の本格採用、国内生産設備業界向けマガジンラックの前期からの繰越し受注などにより堅調な売上実績を積み上げてまいりました。また、環境対応製品の防虫忌避部品（ARINIX）につきましても、カップ式自動販売機などで着実な納入実績をあげることができました。一方で長期化する景気の停滞により、製造業全体の設備投資抑制が継続、顕著化し、産業機器業界向けの工作機械用プラスチック・ファスナー、機構部品などの売上が予想を下回る推移となるとともに、第4四半期には国内外生産設備業界向けマガジンラック売上も計画を下回る水準となりました。これらの要因により単独の売上高は前回予想44億83百万円を下回る44億10百万円（前回予想比73百万円減、前年対比3億38百万円減）となる見込みです。同様に連結の売上高は前回予想46億63百万円を下回る46億40百万円（前回予想比23百万円減、対前年比：3億26百万円減）を見込んでおります。

損益面では、事務機器業界向け工業用プラスチック・ファスナー製品の値下げ要請への対応が続く中、新製品やモデルチェンジへの対応による開発コストが増加する一方で、生産効率化につながる改善が予定通りに進まなかった部分もあり計画を下回る製造原価率低減効果となりました。加えて第4四半期における国内外生産設備業界向けマガジンラック売上の下方修正が売上総利益を低下させました。また研究開発力強化のための人員増などの損益圧迫要因もあり、単独の営業利益は1億5百万円（前回予想比87百万円減、対前年比3億49百万円減）となる見込です。連結の営業利益では香港連結子会社の現地調達製品販売による利益が貢献したものの、前回予想を下回る1億60百万円（前回予想比55百万円減、対前年比3億25百万円減）を見込みます。同様に営業外損益を含む経常利益は単独で1億円（前回予想比57百万円減、対前年比3億30百万円減）、連結は1億55百万円（前回予想比45百万円減、対前年比3億21百万円減）を見込んでおります。

当期純利益は上記の影響により、単独で40百万円（前回予想比42百万円減、対前年比1億86百万円減）、連結では85百万円（前回予想比23百万円減、対前年比1億80百万円減）となる見込みであります。

※上記業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

(4) ご参考：前期の実績（平成18年10月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	4, 9 6 6	4 8 5	4 7 6	2 6 5
単 独	4, 7 4 8	4 5 4	4 3 0	2 2 6

なお、配当金につきましては、当初の見通しに記載した通り、1株当たり10円を予定しております。

以上